讀賣新聞
ワークシート通信

2025年 12月 17日

★★

【おさらい編】初冠雪

年　　組　（　　）　名前

サイン

読売新聞 教育ネットワーク
YOMIURI EDUCATION NETWORK

◆日本で一番高い山で今季初めて雪がつもり山頂が白く見える「初冠雪」が観測されました。

（2025年10月23日 読売新聞夕刊より）

初冠雪を観測した富士山。奥は駿河湾（23日午前、本社ヘリから）＝今利幸撮影

初冠雪

富士山で23日、初冠雪が観測された。甲府地方気象台によると、1894年の観測開始以降、初めて11月にずれ込んだ昨年より15日早く、平年より21日遅い。

同気象台の職員が午前6時頃、富士山頂が雪で覆われているのを目視で確認した。麓の山梨県富士吉田市もこの日、独自に「初雪化粧」を宣言した。

※先生やおうちの人といっしょによみましょう

【1】写真の山の名前はなんですか。

【2】知っている山の名前をたくさん書きましょう。

©The Yomiuri Shimbun

史上最も暑い夏

◆この夏、国内の最高気温の記録が各地で塗り替えられました。

気象庁は1日、今夏（6～8月）の日本の平均気温が過去30年の平均値（基準値）を2・36度上回り、1898年の統計開始以降で最も高かったと発表した。今夏は、国内最高気温の記録が塗り替えられ、猛暑日（最高気温35度以上）の地点数も過去最多となるなど「異常な高温」（同庁）となった。

都市化の影響が比較的小さく、長期間の観測が行われている全国15地点の今夏の平均気温を分析した。その結果、1991～2020年の平均値より2・36度高く、過去最高だった23、24年（1・76度）を大幅に上回った。

全国149地点の観測データを基にした地域別の分析では、過去30年平均より北日本で3・4度、東日本で2・3度、西日本で1・7度それぞれ高く、いずれの地域も1946年の統計開始以降で最高となった。

40度以上を観測した地点数は延べ30に上り、8月5日には群馬県伊勢崎市で国内最高となる41・8度を記録。猛暑日の地点数は延べ9385地点となり、2010年以降の最多記録を塗り替えた。

（2025年9月2日 読売新聞朝刊より）

最高気温の順位（1日時点）

①	群馬県伊勢崎市	41.8℃	2025年8月5日
②	静岡市	41.4℃	〃 8月6日
	埼玉県鳩山町		〃 8月5日
④	群馬県桐生市	41.2℃	〃 8月5日
	兵庫県丹波市		〃 7月30日
⑥	浜松市	41.1℃	20年8月17日
	埼玉県熊谷市		18年7月23日
⑧※	前橋市	41.0℃	25年8月5日

気象庁の資料から。※はほかに2013～24年に4地点

【1】今年、最高気温を記録した上位5か所の市と町がある県の位置を調べ、下の白地図に色を塗りましょう。

【発展問題】この夏の暑さで、あなたの周りではどんな影響がありましたか。裏に書きましょう。

©The Yomiuri Shimbun

讀賣新聞
ワークシート通信
2025年 12月 17日

★★★★ 【おさらい編】「シマウシ」にイグ・ノーベル賞

年　組（　）名前

サイン

読売新聞 教育ネットワーク
YOMIURI EDUCATION NETWORK

「シマウシ」にイグ・ノーベル賞

◆「イグ・ノーベル賞」が発表され、日本の研究チームが「生物学賞」を受賞しました。日本の研究者の受賞は19年連続です。（2025年9月26日　読売中高生新聞より）

科学

「シマウマ模様の牛には虫がつきにくくなる」ことを突き止めた日本のグループの研究が今月、クスッと笑えて、考えさせられる科学的な研究に贈られる「イグ・ノーベル賞？」を受賞した。ユニークな研究成果は、どうやって導き出されたのだろうか。

白い塗料でシマウマのような模様になったウシ
（愛知県農業総合試験場提供）

模様描き虫よけ効果

イグ・ノーベル賞は、アメリカの科学誌が主催する「ノーベル賞のパロディー版」。今年、その賞に選ばれたのは、農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構）の任期付研究員、児嶋朋貴さんらのチームだ。「黒い牛にシマウマのような模様をつけると、血を吸う昆虫を寄せ付けにくくなる虫よけ効果がある」ことを発見し、生物学賞に輝いた。

児嶋さんは「シマウマはしま模様があるおかげで虫に刺されにくい」という説を海外の論文で知り、2017年から本格的に実験をスタートした。実験では、黒い牛に白い塗料を使ってシマウマのような模様を付け、模様のない牛と比べて、寄ってくる虫の数がどれだけ違うかを調べた。牛を柵につないで30分後、虫を数えると、模様のない牛には128匹ついていたのに、シマウマ模様にした牛には半分ほどの55匹しかいなかった。

牛はアブなどの虫に刺されると、虫が媒介する伝染病に感染するリスクが高まる。研究が実用化されれば、殺虫剤に頼らない害虫対策ができる可能性が出てくるという。

アメリカで現地時間の18日に行われた授賞式に、児嶋さんはシマウマ柄のシャツ姿で登場した。式の後、児嶋さんは「私たちの研究を通じて、『科学はおもしろい』と思う人が増えたらうれしい」と喜びを語った。

【1】児嶋さんがなぜ、黒いウシに白い塗料で模様をつけようと考えたのか、説明しましょう。

【2】イグ・ノーベル賞は1991年に始まりました。これまでに日本人や日本の研究チームが受賞した研究内容を調べ、実用化した例をうらに書きましょう。

©The Yomiuri Shimbun

讀賣新聞
ワークシート通信
2025年 12月 17日
★★★★★

【おさらい編】勝てない馬 時代に的中

読売新聞 教育ネットワーク
YOMIURI EDUCATION NETWORK

年　組（　）名前

サイン

勝てない馬　時代に的中

僕も私も「負け組」だった

◆全然勝てないのに人気があった競走馬「ハルウララ」を知っていますか。

（2025年6月15日　読売新聞朝刊より）

全然勝てない馬がいる。そのことにいち早く気付いたのが、高知競馬場（高知市）で場内実況を担当するアナウンサー・橋口浩二さん(58)だった。2003年春。ハルウララというかわいらしい名の付いた牝馬の連敗数は90に迫っていた。

橋口さんは、この無名の馬に一つの希望を見いだしていた。

それは、連敗記録を逆手にとった話題づくりだった。当時の高知競馬は、80億円以上の累積赤字を抱えていた。

2003年6月13日の高知新聞夕刊を、88連敗目を喫したハルウララ、処分はしないと誓う調教師、そして懸命に世話する若い厩務員の物語が飾った。「1回ぐらい、勝とうな」の見出し。この記事をきっかけに大手マスコミもこぞって取り上げ、ハルウララは一気に全国区の存在になっていく。倒産やリストラが相次いでいた中で、結果が残せなくても諦めず走る小柄な馬はいつしか「負け組の星」と呼ばれるように。

2004年3月22日、この時まででJRA通算2323勝を誇る武豊騎手(56)が騎乗したレース。「最弱の馬が最強の騎手と組んで初勝利を目指す」というわかりやすい構図に、熱狂は最高潮に達した。

ハルウララはしかし、スタートから出遅れ、最後まで伸びを欠いた。「ありがとう、ウララ～！」。スタンドから感謝の言葉が降り注いだ。

ブームはいずれ去る。ハルウララは04年8月に113連敗目を喫し、06年秋、競走馬としての登録を抹消された。

「馬を預けたい」。10年、千葉県御宿町にある預託牧場「マーサファーム」代表の宮原優子さん(42)のもとに、一人の女性が訪ねてきた。ハルウララの馬主とわかった。

12年12月、初めて牧場に来た時は生来の臆病さもあって人間との距離を縮めるには時間がかかるように思われた。だが、半年後、宮原さんが馬房の掃除をしていると、ハルウララと目が合った。「かわいいところ、あるじゃん」。距離は縮まりつつあった。

「連敗を売りに」ブームに火

引退後転々 有志がカンパ

馬主からの月8万円ほどの預託料支払いが滞るようになったのは、ちょうどこの頃だ。預託牧場は馬主から預託料が支払われなければ、馬の面倒はみられない。

あのかわいい視線が脳裏をよぎる。それに――。「人間の都合で人気馬に仕立て上げられたのがウララ。そんな彼女をまた人間の都合で手放してしまうのか」。宮原さんは腹をくくった。

14年、「春うらら の会」を設立。ネットを通じて1口3000円で支援を募ると、3か月で80人の会員が集まり、その会費で預託にかかる費用をまかなえるようになった。

千葉に安息の地

ハルウララは今年2月で29歳になった。人間なら80歳を優に超えるとされる。朝ごはんを食べて、ひなたぼっこして、お昼を食べたら昼寝して。マーサファームで過ごす余生は悠々自適そのものだ。勝利実績のある馬も、引退後は乗馬や繁殖馬などに転じることが多く、ハルウララのような余生を送るケースは一部にすぎない。「ウララはある意味、勝ち組ですよ」。そう笑う宮原さんの横を、ハルウララがのんびりと歩いていた。

のびのびと余生を過ごすハルウララを優しく見守る宮原優子さん（2024年11月14日、千葉県御宿町で）＝守谷遼平撮影

あれから

【1】「ハルウララ」は全然勝てなかったのに、人気があったのはなぜですか。

【発展問題】「勝ち組」「負け組」という見方についてどう思いますか。あなたの考えを裏に書きましょう。

©The Yomiuri Shimbun

年　　組　（　　）　名前

サイン

A “full house” banner and Japanese and British flags are displayed on the opening day of The Grand Sumo Tournament in London on Wednesday.

（2025年10月17日　The Japan Newsより）

◆大相撲（おおずもう）の「ロンドン場所」が行われました。

Sumo returns to London's Royal Albert Hall

LONDON - The Grand Sumo Tournament in London opened on Wednesday.

Forty wrestlers - including members of the uppermost makuuchi division - competed vigorously, filling the Royal Albert Hall with excitement. Sumo wrestlers last competed at this venue in 1991.

Approximately 5,400 spectators filled the hall on Wednesday, and a "full house" banner was displayed. The audience cheered and applauded when wrestlers executed throws or managed to fight back from the edge of the dohyo ring.

"The atmosphere is incredible," said yokozuna Onosato, who defeated No. 8 maegashira Ura in the final bout of the day. "I'm truly having a wonderful experience."

【1】会場の「ロイヤル・アルバート・ホール」には、「満員御礼（まんいんおんれい）」の垂（た）れ幕（まく）が掲（かか）げられました。「満員御礼」は記事では何と表記されていますか。英語で書きましょう。

【2】この日の結びの一番では、誰（だれ）が勝ちましたか。日本語で書きましょう。

return：戻る　tournament：大会　wrestler：力士　uppermost：最上の　division：区分
compete：競う　vigorously：力強く　fill：満たす、いっぱいにする　excitement：興奮
last：（時間が）最後の　venue：開催地　approximately：おおよそ　spectator：観客
audience：聴衆　cheer：声援する　applaud：拍手かっさいする　execute：行う
throw：投げ　manage to～：～をやりとげる　fight back：（攻撃を）食い止める
atmosphere：雰囲気　incredible：驚くべき　defeat：負かす　bout：ひと勝負

©The Yomiuri Shimbun